

協同組合間の交流事業 絶好の田植え日和 歓声を上げながら田植え体験



“親子で田植えが体験できる”と毎年好評の「体験田植え」に、今年も32家族120人の組合員が参加しました。久喜市にあるJA全農さいたま「彩の米センター」のたんぼは準備万端、足を踏み入れると水の冷たさにあちこちで歓声が上がりました。田植えの後は、県産米にぎりの試食や餅つきなどが行われました。

5月19日



農林水産省関東農政局 主催 「日本農業のあり方に関する消費者との意見交換会」 食料の安定供給は消費者の願い

関東農政局長より「日本で一人分の食料を得るために必要な農地面積を換算すると、そのほとんどを海外に依存している日本と諸外国の格差は大きく、関税が撤廃されたら農業は大打撃を受けます」などの概要説明後、意見交換が行われました。埼玉県消通連より10人が参加し、消費者の立場から「人間が生きていくうえで一番の基本となる食料の安定的確保は重要な問題」などの発言が続きました。

5月24日



2007
夏号
SUMMER No.23

埼玉県生協連 写真ニュース

発行：埼玉県生活協同組合連合会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-11-5
TEL 048-844-8971

URL：http://
www.seikyoren-saitama.or.jp

埼玉県生協連第36回通常総会 組合員のくらしに貢献 一層の社会的役割発揮を

16会員生協の組合員数は7万人増加し約192万人となりました。石川会長理事は「組合員のくらしは大変厳しく、くらしに貢献できる生協となるよう発展させたい。生協法改正で、生協の社会的役割への期待や責任が大きくなっている」とあいさつしました。すべての議案が賛成多数で承認され、新しい役員が選出されました。

6月21日



2007年第1回県内消費者団体交流会 地域の消費者活動を活発に交流

埼玉消通連では県内の消費者団体との交流会を年2回開催しています。当日は、16団体33人が参加して、「最近の消費者相談事例と行政の対応について」の学習会と活動交流を行いました。自治体の消費生活展への参加、環境問題の学習や講演会などの活動紹介に、参加者はこれからの活動につながるものを得たようです。

6月8日



生協法が59年ぶりに改正 組織・運営の整備をすすめ 社会的責任を果たします

生協法改正案が参議院(4月20日)、衆議院(5月8日)の本会議で、ともに全会一致で可決、成立しました(来年4月施行)。国会での審議の際、被災地支援、レジ袋削減、食の安全の取り組みなど、生協のこれまでの活動が高く評価されました。今回、地域規制や員外利用規制の緩和、共済事業の整備・充実などの改正がされ、ますます生協への期待が強まりました。



5月8日 衆議院本会議場

NPO法人埼玉消費者被害をなくす会 改善の問い合わせや申し入れ活動を行っています

なくす会の会員団体から参加されている活動委員などで、不当契約条項や不当表示のチェック活動を行っています。健康食品や低アルコール飲料、賃貸借契約など、弁護士や相談員を中心に検討し問い合わせや改善の申し入れをすすめています。また、6月7日に施行された消費者団体訴訟制度への申請準備をすすめています。



さいたまコープ

配達トラックに乗って
死角を体験



紙人形劇で車の恐ろしさを知ってもらいます

幼稚園児120人の参加で「交通安全教室」を開催

3月に川越市内の保育園で行った出前「交通安全教室」が保護者会で話題となり、同市内「ひまわり南幼稚園」より依頼を受けて6月4日に開催しました。教室には、年長児約120人が参加。実際の配達トラックに乗り、前方にはったテープの下が運転席からは見えないことを体験してもらいました。

今年で2年目「地元埼玉若手生産者と田んぼ体験」

5月19日、さいたま市岩槻区の南埼玉産直ネットワークとの「米作り体験」が行われ、生協組合員44家族148人の他、生産者、生協・JA関係者など合わせて約180人が参加しました。当日はあいにくの天候でしたが、生産者の方に田植えのコツを教わりながら埼玉県産米「彩のかがやき」の苗を植えました。

泥だらけになりながら
田んぼの感触を
楽しみました



ドゥコープ

生活クラブ生協

けしごむはんこワークショップを開催



グループ「みんなで友だち誘っちゃおうキャンペーン」のイメージロゴ「いっっぱいたべちゃうぞ」を作成して下さった、人気はんこ作家こまけいこさんによるワークショップを5月26日に行いました。参加者は30代の組合員とそのお友達。みんなで作品を仕上げた後は消費材でティータイム。楽しいひとときを過ごすことが出来ました。

山形(鶴岡市)庄内田植えツアー

5月19日～20日、春の遅い庄内平野は雨模様で気温も低い中、有機米の田植え体験を行いました。有機栽培は育苗が天候にかなり左右され「失敗したり、成功したり、悩みながらも「じっくり観察し、楽しさを共有しよう」と続けてきたがようやく形になってきた」と交流会で明るく話す生産者。その力強さに参加した組合員はみな感銘を受けていました。

埼玉県勤労者生協

活動の輪が広がって

「まるごと健康プラン」すすめます

今年度の法人テーマは「創りましょう。元気なまちをつなぐ手で!」。2008年から大きく変わる国の保健事業に対応する準備をしながら「まるごと健康プラン」の実践に取り組めます。健診結果を基に「健康づくりプログラム」、楽しく続けられる班会メニュー、一人でも参加できる「HAN(はん)友キャンペーン」など、だれでも楽しく参加できる健康づくりをすすめています。

ゴール地点で
おもちゃつき



体力別に出発地点を変えてのウォーキング

医療生協さいたま

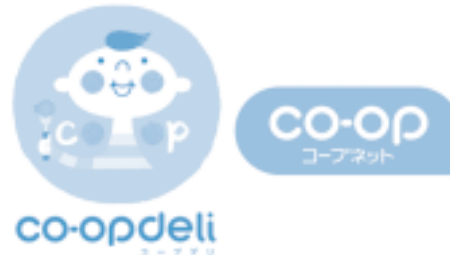
全労済埼玉県本部

「全労済くりんぼう」が6月に朝霞と川越にオープン

組合員の皆さんとのふれあいと、地域社会とのつながりを大切にした新しい来店型店舗としてオープン。保障相談や共済加入受付、契約の変更手続きなどの対応のほか、ご要望に応じてスタッフがご自宅を訪問し様々な保障相談を承ります。組合員への情報提供や地域の皆さんとのふれあい等とおし、全労済の理念「助け合い」の輪を広げていければと考えています。

グループのシンボルマークと ブランドロゴを新設

コープネットグループでは、シンボルマークと共同購入事業ブランドロゴを新設し、運用を開始しました。シンボルマークは、グループの理念「CO・OP ともに はぐくむ くらしと未来」に込めた思いを形にしたもの。また、事業ブランドのコンセプト「おいしく食べる幸せ届きます」を、「CO・OPdeli(コープデリ)」のロゴ、ブランドキャラクターに表現しました。



コープネット事業連合

埼玉大学生協

店舗が全面リニューアルオープン

今年1月、生協センターは「書籍部」「購買部」「旅行」「共済・保険」など総合的にサポートする店舗としてリニューアルオープンしました。大学・研究機関にふさわしい、専門性と相談業務に力を入れています。店内は落ち着いた濃い茶色を基調にした色使いと、BGMにはジャズを流しています。